

25 航空実播工法を採用した治山事業

石川県（小松市）



荒廃状況（昭和47年）



施工状況（昭和62年）



現在の状況（平成25年）



階段工施工状況

位置図



○所在場所

石川県小松市尾小屋町地内

○施設・工法の概要

階段工、筋工、航空実播工等を施工し約34haが緑に回復

○解説

当地域は、明治13年より約80年余りにわたり銅、鉛、鉄などを産出した旧尾小屋鉱山跡地であり、その精錬に伴う鉱煙により地被類に至るまで枯死するなど森林の荒廃が進んでいました。

長年月の間に土壌が流亡し、岩肌が剥き出しとなった荒廃地において昭和47年から階段工、土留工を用いた山腹斜面の基礎工を中心に設置しました。昭和54年からは、当時では希少な工法であったヘリコプターによる航空実播工を導入し、多量のバーク堆肥（有機質資材）を播き人工的に土壌を作り、その後種子を播く工法を考案するなど荒廃地復旧工法の発展に貢献しました。

現在では、裸地化した斜面は完全に森林に還元され水源かん養林としての機能が保全されているとともに都市近郊型の憩いの森・自然学習の森として多くの人たちに利用されています。